

**教育センター  
だより** 第96号

令和3年3月5日発行  
佐野市教育センター  
佐野市上羽田町1134番地1  
電話(20)3108  
(20)3048(相談専用)

**『児童生徒一人一台端末の時代を迎えて』**

佐野市教育委員会教育センター所長 谷 直人

GIGA スクール構想の実現に向けた、児童生徒への1人1台端末整備が、今年度中に終了する運びとなりました。度重なる工事への対応等、各校には休日返上で御協力をいただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

先日、ある校長先生からお電話をいただきました。「研修で配られた資料を拝見し、授業での端末活用がとても楽しみになりました。今のうちからどう使うかの『仕掛け』を考えていこうと思っています。」という内容です。とてもうれしく感じました。数多くの先生が「早く授業で端末を児童生徒に活用させたい。」と感じていただければと思っています。そして、多くの成果が生み出されることを願っています。

とはいえ、先生方の中には「なぜ1人1台?」と思っている方も多いのではないのでしょうか? 「期待」より「不安」という方に向けて、以下3つの活用ポイントを紹介したいと思います。

**【ポイント1】まずは、児童生徒と一緒に使ってみる。そして、共に「学ぶ」。**

使えるところから始めてみてほしいです。一番簡単なのはカメラ。そして、大切なのは「教えない」ということ。「カメラってどうやって使うのだろうね。」と教室でつぶやきましょう。児童生徒はすぐに見つけます。「すごいね。ありがとう。」の声掛けを忘れずに。そして、学級でみんなが使えるようになったら「写真を写すときに気を付けることって?」とつぶやけば、肖像権について児童生徒が自ら考えます。「ログイン」時にはパスワードについて、「ネット検索」時は著作権について等、日常的に考えさせたいですね。先生が「教える」のではなく、共に「学ぶ」ことが大切です。

**【ポイント2】毎日使う。朝、教室に入ったら端末を保管庫から出しましょう。**

毎日ログインすれば、すぐにパスワードを覚えます。ただ、毎日使う『仕掛け』が必要です。端末を使っただけの健康観察はどうでしょう。朝の学習での利用も考えられます。学校としての『仕掛け』で「習うより慣れろ」です。併せて、保管庫からの出し入れ時には端末のチェックも忘れずに行いたいですね。端末を大切に扱おうとする意識づけにもなってきます。

**【ポイント3】児童生徒主体の授業を意識しましょう。**

「今までできなかったことが簡単にできるようになること」が最大のメリットです。

コンピュータが得意でない先生が、「ごんぎつね」の指導の中で、児童に音読を録音、BGMを付け編集、作品をプレゼンテーションさせました。生き生きと活動に取り組む児童の姿がありました。「録音」は学習の個別化。「編集」は読み取りの深化。「プレゼン」は学びあい。しっかりとした目的を感じました。目的を意識した端末の活用が、今までにはない、児童生徒主体の授業につながることの一例です。

最後に、ある書物の一文を紹介します。

「GIGA スクール構想で、1人1台の端末が整備されれば、150年続いてきた学校のあたり前、教師のあたり前、授業のあたり前が少しずつ崩れていくかもしれない。今、そんな期待感を抱いている。」

そうなることのお手伝いを、教育センターは、今後もさせていただきたいと思っています。